

東京都の新たな被害想定と津波発生時の避難について（案）

1 被害想定

東京都は東日本大震災を踏まえて津波による被害想定を公表した。

（平成24年4月18日）

中央区内		元禄型関東地震（M8.2）	東京湾北部地震（M7.3）
震 度		6強	6強 一部7
最 大 津 波 高	水門閉鎖時	2.51m	1.88m
	水門開放時	2.39m	1.88m
最大波高の到達時間 （東京湾）		2時間20分程度	3～7分
浸水区域	水門閉鎖時	浸水なし	浸水なし
	水門開放時	別紙1参照	
建物被害	水門閉鎖時	なし	なし
	水門開放時	全壊39棟、半壊467棟	
人的被害	水門閉鎖時	なし	なし
	水門開放時	なし ただし、浸水エリアに滞留者がいた場合には、発生するおそれある。	

首都直下地震（東京湾北部地震）が発生する確率は、30年以内に70%といわれている。

元禄型関東地震（1703年発生）については、平均発生間隔が2300年程度と推定され、今後30年以内に同様の地震が発生する確率はほぼ0%とされている。

2 避難の考え方

元禄型関東地震において、浸水が想定される佃、月島、勝どきに豊海町を加えた地域を「避難対象地域」とし、当該地域の津波発生時の避難は、次のとおりとする。

耐火造、準耐火造建物（概ね中高層建物）で、地震による倒壊危険等がない建物の居住・滞留者は、2階以上の上階へ避難する。

木造、防火造建物（2階程度の低層建物）の居住・滞留者は、最寄りの小学校等区施設へ避難する。

### 3 小学校等区施設への避難

#### 避難対象者

木造、防火造建物は、浸水による被害の可能性が高いことから、避難対象地域内の当該建物居住者、在勤者、来訪者を避難対象者とするとともに、路上通行者の一定割合数も含める。

#### 避難対象者の算定

昼間においては、平成20年パーソントリップ調査（以下「PT」という。）に基づき、この地域の平日午後2時の滞留者数（居住者も含む。）に、町丁別の木造、防火造居住率を乗じた。

夜間においては、木造、防火造合計棟数に平均世帯人数（1.81人）を乗じた。

### 4 受入施設等（別紙2参照）

避難対象地域の小学校等区施設の2階以上合計面積の70%を受入可能面積とし、3.3㎡に2人を受入人数として算定した。

なお、昼間の小学校等受入施設の人数については、児童・生徒数、利用者数を差し引いている。

#### 木造、防火造居住・滞留者の避難

（単位；人）

地 域 〔 木造 〕 〔 防火造数 〕	受入施設	昼 間			夜 間		
		P T 数	避 難 対象者	受入可能 人 数	人口	避 難 対象者	受入可能 人 数
佃 (625棟)	佃島小 佃中	11,418	1,012	6,749	12,724	1,132	7,327
月島 (1,249棟)	月島第一小 月島区民セン ター	13,953	2,582	5,263	12,251	2,261	5,884
勝どき 豊海町 (346棟)	月島第二小 豊海小	22,397	721	3,968	22,450	627	5,093
計 (2,220棟)	6施設	47,768	4,315 (9.0%)	15,980	47,425	4,020 (8.5%)	18,304